京都
KYOTO

不思議ふしぎ!?

京都に隠れた意外な秘密を紹介します

足下・路傍に歴史あり　二つの隠れ塚

京都のように都であり千年を超える歴史を持つ町には、道沿いや足元にも思わぬ歴史が隠れているものです。

その一つ「宅磨塚」を紹介します。周山街道と三宝寺川が交差する道沿いに卵型の無縫塔がひっそりと建っています。東寺や神護寺の「十二天図屏風」の作者として知られる鎌倉時代の絵師、法眼・宅磨勝賀の墓と伝えます。高山寺の明恵上人の仏徳を愛で、春日、住吉の両明神が影向し、上人と親しく歓談するという噂を聞きつけ、明神の御姿を一目この眼で見、この筆で描きたいものと、物陰から盗み見をして帰宅する途中、天罰か、馬から落ちて絶命したと言われ、そこに墓が建てられました。ここは町名を宅間町といい、絵仏師として巨勢派と並び称された宅磨派の巨匠の遺徳を顕彰すべく、街道沿いの人々に大切にされています。

さてもう一つは「猫間塚」です。百万遍知恩寺境内、釈迦堂前の植え込みの中に、言われなければ存在すら気付かない小さな塚があります。ほとんどの人に見過ごされるこの小さな塚は、実は猫間中納言と呼ばれた平安時代の公卿・藤原清隆のお墓なのです。同家の菩提寺がかつてここにあったことによるとされていますが、清隆の子・光隆は奥州の雄・藤原秀衡の孫である義空上人に土地を寄進し千本釈迦堂大報恩寺の礎を築いた人物で、この光隆の子が藤原家隆。

「風そよぐならの小川の夕暮れは禊ぞ夏のしるしなりける」の歌が百人一首に採られ、かの西行が「人麻呂の再来」と絶賛した大歌人です。

こんな凄いエピソードを持つ人物たちが人知れず埋もれている。これが京都の尽きせぬ魅力です。皆さんも是非立ち止まり、足元を見つめて京都の底なしの歴史を見つけてみて下さい。

（京都・清遊の会　堤 勇二）

周山街道の穏やかな風景
手前の電信柱下にひっそりと宅磨塚がある。

宅磨塚　奥の無縫塔が墓で、
横の石板に連綿と由来が書かれる。

知恩寺境内　奥の建物が釈迦堂、手前が阿弥陀経石。
この経石の横の植え込みにある。わかりますか？

猫間塚
なんとも味のある墓石。是非探してみて下さい。

歴史や文化、全てが源流へとたどり着く古都。
京都を知ることは日本を理解すること。

京都好きを大好きに

京都検定
京都・観光文化検定試験
京都商工会議所